

# 福島市総合教育会議記録(第2回)

令和3年2月24日(水) (庁議室)

11時00分～11時48分

出席者(6名)

市長	木 幡 浩	教育委員	渡 邊 慎太郎
教育長	古 関 明 善	教育委員	篠 木 雄 司
教育長職務代理人	佐 藤 玲 子	教育委員	高 谷 理恵子

事務局出席者【総務部】

総務部次長	安 藤 芳 昭	総務課係長等
総務課長	佐 藤 好 和	

事務局出席者【市民・文化スポーツ部】

文化スポーツ振興室長	村 田 泰 一	スポーツ振興課長	平 塚 剛
文化振興課長	佐 藤 喜 彦		

事務局出席者【教育委員会】

教育部長	矢 吹 淳 一	生涯学習課長	小 野 浩
教育総務課長	清 野 浩	中央学習センター館長	鈴 木 圭 子
学校教育課長	横 山 貴 英	図書館長	安 食 徹
教育施設管理課長	阿 部 和 彦	教育総務課係長等	
教育研修課長	丹 治 秀 樹		

1 議 題

1. 開 会
2. 市長あいさつ
3. 協 議
  - (1) 令和3年度 本市重点施策等について
  - (2) 福島市の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱の策定について
4. 閉 会

## 午前11時00分 開 会

(佐藤総務課長) では、ただいまより令和2年度第2回総合教育会議を開催いたします。私は、本日司会進行を担当いたします総務部総務課長の佐藤でございます。よろしくお願いいたします。本日はお手元に配付の次第により進めさせていただきます。それでは初めに、木幡浩市長よりご挨拶をいただきます。

(木幡市長) 皆さん、改めておはようございます。本日は地震から10日経ちましたけれども、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。地震については教育委員会のほうから報告していただいていると思いますが、46校の設備に被害が生じまして、杉妻小学校、飯野中学校、それからあとまつかわ幼稚園ですね、こちらのほうで休校などの措置が取られまして、とりわけ飯野中学校では受験生の皆さんには学習センターを借りて授業を進めるといった対応を取らせていただいているところであります。さて、この3月11日で大震災から10年を迎えます。国では第2期復興・創生期間というものが始まるわけでありましてけれども、我々も新しい総合計画を新年度からスタートするというにしています。現下では新型コロナウイルスがまだ我々の大問題として横たわっていて、これを何とか新年度は克服への道を見出だして、そして様々なことに前向きに取り組んでいけるようにしなければいけないと思っておりますが、そうした上でこの新年度というのはこの予算の資料にもありますように、新たな復興創生のステージのスタートになる年だと位置付けて、さらに未来に向けた取組を進めていきたいというふうに考えております。

教育関係で申し上げますと、私としてはとにかく人口減が進んで、これを何とか食い止めていかなきゃいけないという観点からすると、若い世代の定着が非常に重要であります。そのために「子育てと教育なら福島だ」と言っていただけるようなものにしていきたいという意気込みで今回の予算も作りました。それから、オリンピックや古関さんという非常に私たちにとっては大きなチャンスが訪れてきているわけですが、そういったレガシー、財産、遺産を生かして文化・スポーツの振興を図り、この文化・スポーツというのは教育委員会から市長部局に移管させていただきましたので、振興というだけではなくて、それを生かしてまちづくりとか様々な面で効果があるようにしていきたいというふうに考えております。そうした中で、教育のほうはおかげさまでハードのほうは大分進んできたと思っております。1人1台タブレットをはじめとするICT環境はほぼ整いました。それから学校トイレの洋式化も私の就任時に20%そこらだったものが、今年度中には68%くらいいきまして、今度も今年度の補正予算に前倒して最終年度分を実施をして、新年度の早い時期に8割以上という目標を達成できるというふうに思っております。それから耐震化、あるいは養護学校の改築といったも

のも順調に進んでおりますし、それから何といたっても今回ですね、本当に古い机がですね、遺産としてまだ残っていたわけですが、これも1年で全部入れ替える、こういう取組をさせていただいて、8月末までには終える予定であります。このように急ピッチでハードは整備させていただきました。問題はこれから教育の質なり、いかに生徒に寄り添った取組をしていけるかということでありまして、その点では様々なソフト面でのこ入れも大事であります。一方でまた教員の質の向上とかですね、いろいろな工夫をして質を上げていくと、あるいは質を上げるための取組として様々な改革をするということが、私は求められているというふうに考えています。

また一方で、スポーツのほうは、先日スポーツコミッションというものを立ち上げて、スポーツの様々なものを呼び込んでまちを活性化していこうではないかということにしているのですが、オリンピックを契機としてスポーツのまちづくりを進めます。その際に、本市の場合、「先導的共生社会ホストタウン」という全国でも少ない取組を行っております。これはまさに障がいのある人もない人も、あるいは全ての人に優しいまちである共生社会を作っていくという理念のもとに取り組んでいるのですが、そういった特色を生かしてですね、パラスポーツを本市の軸の1つにして、そして世間で話題になっている多様性という一人一人を尊重するような文化を根付かせる取組を、スポーツを通じて進めていきたいというふうに考えております。

さらに、文化の関係で言えば、古関さんという偉大な人物を我々は財産に持ちまして、これを生かしたまちづくりを進めるというだけではなく、それにふさわしい文化の面ですね、音楽のコンクールとかそういったことも含めながら取り組んでまいりますし、あるいは民家園の広瀬座等の改修を進めたり、地域のものを生かしながらそれをより磨いて、文化の振興、そして活性化につなげていく、そのまた一番の柱になるものとして、新年度は文化振興条例というものの制定にも着手したいと考えております。

様々な教育面では取組を進めてまいります。その大本になるものが教育の大綱であります。新年度からの大綱を前回ご議論いただきましたが、今日改めてご提案させていただいて、それを柱としてこれから今申し上げたような様々な取組をさらに加速していけるように頑張ってまいりますので、よろしく願いいたします。

(佐藤総務課長) ありがとうございます。次に協議に移らせていただきます。協議につきましては、福島市総合教育会議設置要綱の規定によりまして、木幡市長を議長に議事を進行していただきます。市長、よろしく願いいたします。

(木幡市長) それでは、進行させていただきます。今日は協議事項を2件準備しております。1つは何といたっても、今日一番大事なものは教育の大綱なんです。大綱を進めるにも教育に関わる様々な周りの状況を皆様にも知っていただきたいなと思って、あえて本市の重点施策の来年度の展開を私のほうからご説明させていただきたいと思

います。こちらにもあるように、テーマは「新たな復興創生ステージのスタート」ということをテーマに、新年度取り組みたいと考えております。大震災から10年を経て、そして新型コロナの克服には何よりも我々は重視していかなければなりません、それを克服しながら、特に市民との共創、共に創り上げるということにおいてですね、新ステージを切り開いていきたいと考えております。予算は1,123億円ですが、4%のマイナスといいなながらも、除染を除けば実質的には1.3%の伸びで過去最高という規模になっております。

今回、10の重点プロジェクトというものを柱にしております。1つはやはり新型コロナ対策とコロナ後を見据えた改革・変革ということで、これまでの対策の延長に立って新型コロナ対策をやってまいりますが、何といても新年度の柱はワクチンの接種であります。報道でもご覧いただいているとおり、非常にまだ不透明な部分があって、実際のワクチン接種の経費自体はまだここに入っておりません。これから予算確保して、円滑に進められるようにしてまいります。経済対策などもそうなんですけども、コロナ対策というのはその時の雰囲気によって、タイミングと出す施策を間違えると、全然こう良い施策も愚策になっちゃうんですよね。ですから私としてはですね、本当はいろいろまだ経済の回復についてもやりたいのがあるんですけども、ちょっと今出せるタイミングを見ていて、あるいは国とか県がやる内容によっては我々変えなきゃいけないんです。そういう面もあるんで、それはまたやらなきゃいけないという時にスパッとやれるように、そんな形で対応していきたいと考えています。一方で、コロナも対症療法的に対応しているだけでは、結局我々進歩がないのです。むしろいかにコロナによって感じた我々の限界、遅れをですね、この機会に前に進めていくかによって、この地域がコロナの明けた時に前に進んでいる団体か、一歩も進めない団体か、歴然とした差がついてしまうと思っています。そのためにコロナ後を見据えた変革というのに強く取り組んでおりまして、その場合の1つのポイントがやっぱりICT化です。それから、このコロナによって地方への移転というのが、今のところメディアの論調だけで、そう強い動きにはなっていないとは思いますが、それを我々として取り組まなきゃいけないということで、リモートワークの拠点を作ったり、オンラインの学会なんかについての取組をしたり、あるいはものづくりの市内の中小企業とかあるいはよそから来るベンチャービジネスとかそういったものを誘致したり、地元の中企業も高度化できるような、先ほど申し上げたようなICT等を特に含めてですね。あとは働き方改革です。福島のゆとりに合った、こういったものに取り組んでまいります。そして、行政のほうも様々な面で、公共施設の予約にしても町内会にしてもオンライン化をすると。あるいは、今むしろ学校以上に進んできたのが幼稚園です。全部にタブレット配りまして、今回のコロナでも夜の11時くらいに、明日休校します、休園しますとかそういうやり取りが、コドモンというシステムを通じて親御さ

んとできています。こういったものをさらに進めるし、あと市内のいわゆるシェアサイクルというのを導入し、これもスマホでできるように取組を進めてまいります。

先ほど申し上げた「子育てと教育なら福島」ということで、待機児童解消に、さらに送迎ステーションなどを新しく導入すると同時に、「子ども・子育て新ステージ」といったような、待機児童はマイナスからゼロに戻す対策、今度はプラスにしていこうというのでこの新ステージの事業を昨年来進めております。その中でですね、子どもの前の時点もまた大変大切なんです。特に未婚率が上がってきていますんで、これを上げないことにはなかなか子どもたちも増えないという状況です。今回、結婚支援事業ということで3年間にわたって家賃の補助とかをするような仕組みを作って、これは多分相当他の地域に比べると手厚いと思います。

学校は、皆さんお聞きになっていると思うので省略します。

それから「古閑裕而のまちづくり」ということでいろいろ進めてまいります。この中であるような3県連携の朝ドラプロジェクトとかですね、被災3県の。さらには古閑裕而のコンクール、あるいはチェンバーオーケストラという新しいオーケストラを作るとか、こういった面での文化の底上げをさらに図ってまいります。

そして先ほど申し上げたような移住関係もこれをチャンスにいろいろな施策をパッケージとして進めて定着を図る。それから、実はこれまで福島市というとやっぱり存在感が弱かったんです。昨年様々な面でアピールし、かつ、ふるさと納税なんかも出してきました。私になってから増えてはきていたのですが、今年度のふるさと納税は前年度に比べると7倍くらいです。すごいです。今、目標9億にしていますが、昨年は1億4千万ちょっとくらいですかね。そういう面でも福島市のブランドを上げたいと思っています。ですから、教育とかにしても、「教育なら福島だ」というようなブランドになってくればまたいろいろ引き込める。私としてはそうやっていろいろな人を呼べるまちにしたいということです。

それから、まちづくりもですね、公共施設の再編を含めてやってまいります。とにかくその中で今回改めて思い知ったのは、耐震化とか老朽化した建物への対策の遅れであります。私としては猛スピードでこれまで対策に取り組んできたつもりですが、いよいよもってやっぱり、市民会館とか学習センターを長くは放っておけない状況なので、その西に作る新たな市民センターを急いで、そしてこちらのほうに移転させたいと思っておりますし、実は市営住宅のほうも1棟全壊扱いの状況になってしまって、今皆さんに出ているというという状況であります。

それから、こちらにあるように文化に関しては、文化振興条例の策定に着手し、写真美術館とか土偶、広瀬座といった福島独自の文化をさらに磨いて生かしていきたいということでもあります。

中心市街地の活性化もですね、先ほどの再開発等と併せてやってまいります。そ

の中でも商工業もそうなんですけど、できる限りクリエイティブな人たちをこれからもっともっと集めたいと思っています。福島の場合、創業支援とか創造的なものに対する対策が弱かったんですね。まちづくりでも、つい商店街という発想だったんですけども、今私のほうは、街なかよりもむしろフリーランスとか、そういう人たちを集めれば、実際にその人たちがまちの賑わいにもなるし、何よりも産業の振興にもつながっていく、高度化にもつながるということで、そういった創造性豊かな人が集まってまちが賑わうというようなものを新年度からは狙っております。道の駅も令和4年春を目指して進めてまいります。

農業も同じようにですね、新たな基軸、スマート農業なんかも着手しますし、企業でいうメンター制度というようなものを農業にも取り入れて、若い人たちが気軽に自己を高めながらやっていけるような就農者支援を進めてまいります。

観光のほうもこれまで以上にやっていくのですが、その中で先ほどのスポーツコミッションというものを申し上げましたけれども、既にロケツーリズムというロケの誘致に関しては、今回、古関さん絡みで、エール絡みで「日本ロケーションジャパン」に参画しまして、今回準グランプリをいただきました。やっぱり、こういうものも単に活性化というだけじゃなくて、いろいろな面で知的な刺激になっていくんじゃないかなというふうに思っています。

それから、災害関係を当然また進めてまいりますし、環境のほうはですね、今回はまた一段と取組を進めてまいります。ゴミとか通常的生活環境とかもそうなのですが、新たな視点として、「ゼロカーボンシティ」という本市としても2050年に実質ゼロカーボンを目指すということで、今回脱炭素のための新たな蓄電池に関する支援とか、あるいは市役所もきちんとエコカーの導入を目標を定めて、基本的にこれから更新するときにはエコカーということで、10年後は大体半分くらいを目指す。それから、充電スタンドも今ここにありますが、それも再生可能エネルギーで発電した充電ということにして、ある意味では再エネスタンドですね。やっぱり趣旨を徹底していかないと、いまいち広がらないと思うので、そういう取組を進めてまいります。それから、除去土壌と医療関係とかを引き続き安心安全のために進めてまいります。

オリンピックは今どうなるかは我々もまだ視界が十分開けていない状況ですが、この前もあるインタビューで申し上げたのですが、子どもたちにとってみればオリンピックが開かれるということはすごい感動とか記憶に残ることだと思うんですね。出来れば私としても開催してほしいし、その時にぜひ子どもたちに見てもらいたい、感じてもらいたいと思っています。できる範囲で我々もおもてなしとか進めてまいります。先ほど申し上げた共生社会のホストタウンなども新年度にサミットを開くと、福島市で。そんなことにもなっておりますし、こちらではスポーツのまちづくりとか健康づくり、賑わい、共生社会、外国人との多文化共生、こういったことも単にオリ

ピックを一過性のものじゃなくて、オリンピックを契機にした遺産の形成、遺産の活用ということに私としては重点を置いてまいります。そのバリアフリーはこういったものでありまして、バリアフリー支援事業ということでエレベーターの設置などもやるのですが、教育のほうでもバリアフリーの読本をやってもらって、併せて今回、心のバリアフリーの読本も作って使ってもらっていますが、その場合にはコロナに絡んだ偏見・差別の無いようにということでの教育も進めてもらいたいと思っています。

動物のほうも、ふるさと納税で今回項目を入れたらかなりいただいておりますので、こちらのほうも施策を充実しております。

あとは健康づくりですね。前向きに「健都ふくしま」ということでやってまいりますが、高齢者のほうは制度的には介護保険とかの様々な制度がしっかりしているので、むしろより元気になる取組を市としては重点を入れて、「元気プロジェクト」のようなものですね。これはもうパラスポーツなど使いながら進めていきたいと思っております。

それから、共創のまちづくりということで、市民と共に創るということですが、先日、日曜日に私と高校生で「元気トーク」を実施しました。その前の1月には、教育関係者、なかなか話を聞けない方々と「元気トーク」をやりましたけども、そういう普段話を聞けない方々とコミュニケーションを取りながら、共創によるまちづくりを進めてまいります。

そして、成人式が今年オンラインということで、私が皆さんのいらっしゃる前で代わりの場を設けるという話をしました。その事業が「20歳のチャレンジプロジェクト」ということで、これも我々がしつらえて来てもらうってだけじゃ良くないだろうとあっていて、むしろ新成人たちに手を挙げてもらって、その人たちに自分たちで企画してもらおうと思っています。それで自分たちが本当に集まりたいものを作ってもらって、ある程度当然お金も出しますけども、それで足りないのだったら自分たちで集めてもらうとか、そういうチャレンジを新成人の皆さんにしていきたいと思っています。あと教育のほうにもあったのですが、今回の地震でも、教育関係施設も大分傷みました。これまであまり手を入れていないというのがやっぱり非常に私は問題だと思っています、今回、公共施設の総合管理計画を作るときに、まずは長寿命化として、これまで先送りしたものを前倒して今回かなり一気にやろうと、10億の予算を作っているいろいろな修繕が必要なものを今回補修して、長期的なライフサイクルコストの低減を図っていききたいというふうに思っています。

あと先ほども申し上げましたが、ICTもですね、市民生活のICT化とかそういったことを進めて、これらは格段に進めます。その際には、要するに今まではICT化は、出来ない人が多いからやらないということでもますます遅れてきたわけです。でもそれじゃいけないから、これを進める、やれない人はサポートするというところでや

ってまいります、その際にはですね、今回子どもたちの教育で子どもたちが慣れてくれば、子どもたちが先生になって地域のICT化をぜひ進めてもらいたいと思ってまして、そういうことを学校現場でむしろ子どもたちにおじいちゃん、おばあちゃんに教えるようなそういう取組をしてもらえると地域のICTの能力が格段に上がるんじゃないかなと、そんなふうに思っております。

概要はそうなのですが、これだけ頑張ってきた分だけ、このように予算はずっと伸びてきたんですよ。結果として、借金のほうも私が就任するまでは810億位の起債残高しかなかったのですが、1,088億ということでした。しっかりと伸ばしております。そのためにも、より効率性を高めるとかですね、改革も一方で進めてまいります。しかし一方で、事業も先送りしないでやる方針でありますので、その点では教育委員の皆様も単にこれをやれと云々という前向きなものだけではなくて、やっぱりスクラップなり、こういうのは改革すべきだとそういうものはそれとしてむしろ言っていただきたいなと思っております。私からは以上です。何かご意見とか質問とかありましたら、どうぞ。

(渡邊委員) 今のご説明で、例えば「20歳のチャレンジプロジェクト事業」であるとか、あるいはまちづくりの中でフリーランスの方の活躍を取り込んでいくというお話に共通していると思ったのですが、自分が面白がってというか楽しみながら積極的に取り組んでいくプロジェクトは、やっぱりより他の人への影響力も大きいのかなと思いますので、今2つだけ例示しましたが、そういう方向の取組というのは非常に活性化につながっていくので、期待できるというか楽しみだなと説明を聞いて感じました。

(木幡市長) 全体としても成長していくと思うんですね。

(篠木委員) 成人式の約束をちゃんとやっていただくのは素晴らしいなと思っておりますし、渡邊委員から話が出たように主体性というか、行政からやってもらえることではなくて、市民が主体的に取り組んでいくということはすごく良い方向だなと思えます。このコロナで時代の流れが決定的に変わっていくのはもう流れになっていく中で、一番初めにSDGsの話が載っていましたが、SDGsの中で子どもたちとかに話をすると一番響くところが「誰一人置き去りにしない社会の実現」という部分が案外、不登校の問題も含めてですが響く部分だと思うのですが、その中で主体的にというか自分たちで問題・課題を見つけてそれを解決していく面白さというのがこのSDGsの中にはあるのかなとっていて、そういうことを福島からというか福島のやり方というかそういうことをいろいろな形で取り組んでいくと良いなと思っております。あと、私は個人的に思うのですが、市長のいろいろなこと、いろいろな問題を解決していく姿というものが、その見本になるのではないかなと、スピード感も含めて。これからいろいろなこと、タブレットは1人1台いきますけど、情報は貰えるけども

それをいろいろな点と点をつないで解決していくことがこれから一番大切になっていくので、そういうことを、福島ならではのやり方というかそういうことが子どもたちのこれから生きていく能力につながっていくと思いますし、その一番の手本は、市長のやり方が面白いなと問題解決ということでは思いました。

(木幡市長) はい、ありがとうございます。他いかがですか。

(高谷委員) 様々な部分にわたって新しい試みが提案されていて、非常にわくわくしながら話を伺わせていただきました。一番素晴らしい、すごく助かると思ったのが、市民サービスのデジタル化の部分で、いろいろな所でキャッシュレスのシステムだったり、予約システムの導入だったり、そういうところを入れていただくことで誰もが非常に参加しやすくなる、ハードルが下がるなど実感しています。その中の1つで市民利用施設のWi-Fi環境の整備ってあって、お願いしたかったところがちゃんと盛り込まれているなど思ったんですけども、やっぱり人と人とがつながっていくことでそこから生まれてくるものがたくさんあると思うので、街なかのお仕事されている層をつなげるということもそうですけれども、地域単位でもぜひ拠点づくりをしていただけたらと思っていて、子どもたちがフリーWi-Fiを安心して使える拠点づくり、例えばこども食堂とか見守り隊の方とか、いろいろなボランティアの方で子どもの支援をしたいと思っているけれども、実際は食堂というのはかなりハードルが高いので何もできないと思っていらっしゃる方がすごく多くて、そういう方も巻き込みながら子どものフリーWi-Fiが使える環境整備を目指していただくことで、子ども同士、子どもと地域の大人がつながる拠点というのが、よりボランティアの手で増やしていけると良いなというふうに思っておりまして、その辺りもぜひ街なかだけではなくそれぞれの地域でのボランティアさんを巻き込みながらWi-Fiの拠点づくりもお願いできたらなと思いました。

(佐藤委員) SDGsの取組ということで、先ほど渡邊委員さんから資料をいただいたのですが、何に属しているのかというのが必ず書面の一部に出てくると意識付けができるというお話があったので、こういったものを例えばプリントとか何かを作られた時に、市として「これはこういった分野に該当します」みたいなのが、アイコンがちょっと載っていると、意識付けとしてさりげなくですけどもできるのではないかなと思いました。それから、私は建築をやっている人間なので、バリアフリー新法というのが今度できて、学校建築にまでエレベーターだったり、多機能トイレの要求が今までは無かったのですが、要求されるようになるので、改築とかのきっかけでそういったことをしなければならなくなってくるので、より一層そういうことがなされていけば進んでいくのかなというふうに思いました。

(木幡市長) SDGsの関係はですね、これは本当にいろいろあるし、それでなくてもぐちゃぐちゃに入っているから入れていないですけど、総合計画は基本的に、この

施策はこれに該当しますというものは入れてありますので、それはもう既に着手をさせていただいています。あと、これはいろいろ人によって違うと思うんですけどね、僕はSDGsはSDGsそのものを学ぶのが大事なわけではないと思うんですよ。やっぱりSDGsというものをちゃんと我々が消化をして、それでそれを我々固有の理念とかまちづくりにしていくのが私は大事なのかなと思っていて、ちなみに私はこれがSDGsだと思っています。SDGsはいろいろありますけれども、17のアイコンで「これがSDGsです」というと、結局今までの学校教育と変わらないじゃないですか。記憶とか何かばっかりじゃなくて、それよりは、SDGsを消化した結果として、こういう行動を自分たちは取っていかうねという、自分たちに分かりやすい言葉で理解をしてやっていく、あるいは地域の表現にしていくというのが大事で、別に我々はSDGsのために地域づくりをやるんじゃないと思うんですよね。そういう理念を取り込みながら、最終的に福島市としての目標、あるいは各人の目標、行動の規範というものを作っていくのが大事だと思うんで、あんまり私自身はSDGsに関して向学的なことをやりすぎるのもどうなのかなと実は思っています。むしろ大事なのはSDGsを体現した結果としてどんな形になるんだろうと、あるいは、自分としてはこういうふうな姿をSDGsのシンボリックなものとして考えて行動しているんですけど言ったほうが大事じゃないかなと。どうでしょう。

(渡邊委員) 今の話、本当にそのとおりだと思って、この間ちょうどバリ島のSDGsを見ていたら、バリ島の中学生がゴミ袋を全廃する活動をやって、実際に達成したというものが載っていました。実際に子どもたちが何かいろいろな活動をして、社会の課題を解決していくような形になると本当の意味での定着というか、やっぱり本質は課題を解決する子どもたちをどうやってつくっていくかだと思うので、そういうことも伝えていくことが大切だなと思いました。

(木幡市長) 私もいろいろ見せ方というものがあって、例えばSDGsというものを大事にしている若い人なんかとかビジネスマン向けにはSDGsのバッジを使ったりもするんですけども、でも結局みんなSDGsのバッジをやるということが、それが好ましい姿なのかと思うんですよね。これって、ほとんど日本が同質化社会のシンボルであって、本来はSDGsのエッセンスの1つである「多様性の尊重」とは全然違った話を、「画一性の尊重」みたいなことをやっているような感じじゃないですか。だから本当に個性とか一人一人を大事にするというのだったら、みんなが同じ行動を取るっていうのは決して僕はSDGsを理解していることだとは思えない。むしろ違っていったほうが良いんじゃないかと思うんですけどね。そんなこともあって、福島市では総合計画のほうも「多様性の尊重」というものを我々は理念の5つのうちの1つに入れてありますので、やっぱりそれぞれの多様性を尊重しながら、違いを尊重しながら取り組んでいきたいなと思っています。

はい、じゃあこの件は皆さんのご意見を頂きましたのでこれを踏まえてまた我々も施策展開を考えてまいりたいと思います。ありがとうございました。

では、続いて2つ目の教育の大綱の策定について事務局より説明をお願いします。

(清野教育総務課長) それではご説明させていただきます。大綱の資料でございますが、1つは大綱の案の本体でございます。もう1つが修正の経過表、さらに現計画との違いといったものでございますが、修正の経過表のほうを先にご説明をいたしますので、ご覧いただきたいと思います。

左端の1番から5番が12月の前回の総合教育会議のほうで委員の皆様からご意見を頂戴した内容と、それに対する事務局のほうでその修正の方針関係をまとめたものでございます。1番と2番は基本理念についての文章表現、あとは基本理念全体をサンプルにしたほうがというご意見を頂いて修正のほうをさせていただきました。3番の基本目標でございますが、こちら表記の統一ということで変更をさせていただきました。あと4番でございますが、基本方針のI-2の①と②、この「知識・技能」について同じことの繰り返しなのではないかというご意見を頂きましたが、こちらにつきましては①のほうは「知識・技能」を習得するまでの取組の方針、②のほうは習得した後の「知識・技能」を使えるように育てる取組方針ということで、意味合いが若干違うということでこちらのほうはそのままさせていただきました。ただ、もう1点の「意欲的に取り組み」という表現のところが、学ぶことを楽しみ、楽しむから主体的になる、そうやって意欲的に取り組んでいけるという考えは大事にさせていただければということがありましたので、こちらのほうの表現は、変更の内容のとおり変更させていただきました。あと5番のプログラミング教育の関係でございますけども、こちらのほうは文言の部分にはなりますけども、表現の仕方としては修正をしない、そのままさせていただきましたところ。あと6番でございますけども、こちらは別途委員さんのほうからご意見のほうを頂戴した内容であります。今回の教育の大綱からは、対象期間を定めないという考え方で作成していますので、こちらをどこかに記載したほうがよろしいじゃないかとご意見いただいたので、後ほど本文のご説明の関係でご説明いたします。最後になりますが、文化芸術の振興の部分、基本方針の1番ですけれども、総合計画の策定の関係も様子をみまして、その辺の整合性や考え方の修正で全体的にこちらの①・②を事務局のほうで修正をさせていただいたところでございます。

そういたしまして、全体の本文の案をご覧いただきたいと思います。本文の1ページからになります。「教育の大綱について」の3段落目でございます。「また」以降です。こちらが期間を定めないという表現をさせていただいた記述でございますが、「福島市の教育の大綱は、本市教育が目指す基本的な方針を示すもので、期間を定めて取り組む性格のものではないことから、具体的な対象期間は定めず、必要に応じて適宜

見直しを行うものとしします。」というふうに記載をさせていただきました。あと、基本理念・基本目標関係の文言の整理は先ほどの修正箇所のとおりでございます。そういったしまして、2ページからが基本方針という形で、基本方針のI-1の①の多様性の尊重からずっとスタートして4ページまでの間の内容について、その取組の内容について記載したのがこちらの大綱でございます。説明は以上でございます。

(木幡市長) はい、ありがとうございます。今、事務局から説明をさせていただきましたが、ご意見ご質問ありましたらご発言をお願いいたします。

(渡邊委員) 質問です。先ほどの話と被るんですが、4ページのこれは教育委員会の所管からは多少離れるかもしれませんが、文化芸術の振興の基本方針のIV-1の①の部分を今回修正していただきまして、前は「団体等への支援や人材の発掘・育成」という表現だったのが、「振興と継承のための道しるべとなる長期ビジョンの策定を進める」とより抽象化されたのかなと思っています。で、団体を支援して終わりというよりも、より今回の修正後の表現のほうが良いなと思っているんですが、「長期ビジョンの策定を進めます」という部分について、そうすると何かビジョンを策定すること自体が目標かのようにも読めるなと思いますけど、実際のところ、これは長期ビジョンの策定を進めるというのは、何かアウトプットというか出口としては想定されているものなのでしょうか。

(木幡市長) はい、事務局いかがですか。

(佐藤文化振興課長) 文化振興課長の佐藤と申します。この「長期ビジョンの策定」の長期ビジョンには先ほど市長からありました条例、さらに条例を作った後は道しるべと称しておりますので、計画というものも必要になってくると。その中で、先行している総合計画との整合性を合わせながら、もっと細かな指標としていく部分を含めて計画に盛り込んでいければなと思っておりますので、このようなちょっと抽象的な書き様になってございます。

(木幡市長) 抽象的なのはそれはそれで良いけど、要するにこれを作ること自体は目標じゃない。逆じゃないかと思うんですよね、書き方が。「作ります」で終わっちゃうと、それはそれで作っておしまいだから。これを作ってこうします、という逆の仕方にしなきゃいけない。どっちかというとなんな「何々のためにこうします」だと思っんですね。「何々をしてこうします」という展開をするというのがご意見ですよ。

(渡邊委員) そういう趣旨です。だから、策定し展開するとか、策定を進めるのではなくて、策定のうえ進めていくんだというところをもう一言足したほうがいいかなと。

(木幡市長) まあそれはおっしゃる通りだと思います。作っちゃうとおしまいになっちゃうので。それはむしろ短期のものであって、これはどちらかというとな、今言ったように長期の期限のない大綱ですから。そこは修正をさせていただきます。

(篠木委員) 2点あって、1点が図書館の部分なんですけども、この間、図書館の担

当の方といろいろ話をする中で、図書館関係の担当の人は優秀で良い人材がいっぱいやるので、これからまた新しくなっていくとかそういう中で、他からうらやましがられるような何かができるんじゃないかなと思って、優秀な良い人がいるという部分で思ったのと、今だと他の図書館に行った時に、例えば原町の駅前の図書館を見た時にちょっと負けているよなと思ったりもしました。

もう1つ、広瀬座の部分は、本当にとってもいい施設だと思うんで、この間ちょっと意見というか、実際に公演とかをやる人に音楽をやるのに電気が足りないみたいな話を聞いて、その辺が改善されていくんだなと思っていたんですけど、例えば水素自動車がバッテリーになってやるとかそういうのもあったりするのかな、前にU2のコンサートが東京であった時に水素自動車のバッテリーが電源に音楽が良くなるみたいな話があってそういうのにつながったりとか、いろいろ福島ならではの、いろいろな施策をお願いしていけると良いなと思いました。以上です。

(木幡市長) はい、ありがとうございます。バッテリーがあつたとしても、その後の設備がだめだといくら電源があつてもだめなので、その点では一定の設備がまず必要なのだらうと思います。それから、おっしゃるように環境面はですね、さっきも言ったように徹底してやっていかないといけないと思っていて、その点ではさっき申し上げたように、充電スタンド自体を再生可能エネルギーで、それから我々も水素自動車まではなかなか高いのであれですけど、公用車の半分はこれから最低でもプラグインハイブリッドとかその手のハイブリッドで、プラス電気自動車にもしていくと。電気自動車だと、電気自動車の電源が使えるので、それを災害の時とかは多様に活用していきたいと思っていますので、我々の行動自体がいろんな人の模範というか学びになってくれるような形でやっていきたいと思うし、何よりも有効活用を徹底していきたいと思っています。はい、ありがとうございます。他いかがでしょうか。

大綱なのでどちらかというと抽象化した表現が多くなっているかと思っています。その点では特にご意見が無いようであれば、今の渡邊委員からご意見がありました部分はちょっと修正させていただいて、そのうえでそれは事務局にお任せさせていただいて、大体趣旨は合いましたから、そのうえでこの内容については決定ということにさせていただければと思いますがいかがでしょうか。

**【一同、賛成】**

(木幡市長) はい、ありがとうございます。それでは一部修正のうえ決定という形でご委任いただいたということでやっていきたいと思っています。あと、今お話あったように大綱というものは大きな方向性を示していく、それに対して今後大事なものは、篠木委員はじめ皆さんからご意見のあつた具体の運用なり進め方でありまして、それ自体がこの大綱を生かすような形で進めていければと思っていますので、特にここにいる事務局の皆さんにはしっかりと肝に銘じて進めていただければというように思いま

す。

以上をもちまして協議を終了し、私の議長としての役割は閉じさせていただきます。  
ありがとうございました。

(佐藤総務課長) はい、ありがとうございました。それではこれをもちまして令和2  
年度第2回総合教育会議を閉会いたします。ありがとうございました。

(一同) ありがとうございました。

午前 11 時 48 分                      閉      会

---